

# 気になる想い出

瀬川美能留

丸々とふとつた『陳情使節』

想い出は三十余年前にさかのぼる。確か大平さんが池田大蔵大臣の秘書官をしておられた占領下の時代のことである。

当時、大平さんは池田さんの命令を受けて急遽渡米されることになり、その前夜、当社の奥村社長（当時）と一緒に、柳橋の料亭でお目にかかったのである。渡米の目的はいろいろあつたろうが、ひとことでいえば日本の食糧事情の窮状をアメリカ本国の要人に訴えることであつたと思う。そこで初対面の挨拶をすませた私は、いつもの悪いクセが出てしまい、心安げに無礼な言葉を呈したのである。「大平さん、そんなに丸々とふとつた元気な身体でアメリカへ行かれては、先方のえらい人たちも日本の食糧事情に同情しませんよ。もう少し痩せて、哀れな格好をして行かれた方がよらしい」。

ザックバランに感じたままをいったわけだが、大平さんはムツとした顔で沈黙したまま返事をされない。その時、深刻な食糧問題に真剣に取り組み中で冗談などに付き合っておれない気持だつたためか、はたまた肥満を気にしておられたからか、見る間に不機嫌になられたものである。

その後、いつかこの時のお詫びを申し上げようと思つていろいろうちに、とうとう昇天してしまわれた。今さらどうしようもないが、いささか気になる想い出の一つである。

「男」を間違つた……

それから十年後のある日、私は池田さんに呼ばれて信濃町の私邸を訪れた。当時、社長に就任したばかりの私に社長としての心得を話してやろうという親心からだったらしい。

池田さんは例のダミ声で厳肅な顔をしながら、「瀬川君、これからの君の仕事は『男』を間違わぬようにすることだ。まあ『女』については経験もあるうし、もう間違わんだらうが、『男』は『女』以上に難しい。これを誤れば社長としての仕事は動まらないぞ」とのアドバイスである。つづけて池田さんは、自分の周囲の人たちの名前を一人一人あげながら、その『男』たちに対する考えを率直に話された。そして当時すでに衆議院議員であった大平さんについては、「自分が公私ともに打ち明けることができ、全く安心のできる『男』……」ということであつた。そして「大平君とはこれからも仲よくやってくれ」と、特に力を入れて語られた。

爾来二十余年、私はこの時の池田さんの一言を胸に秘めながら、ずっと大平さんのご交誼をいただくこととなつた。知るほどに人間味のある大きさが感じられ、また、どんなことでも遠慮なく相談できる方であつた。

後に大蔵大臣や総理大臣になられてからも証券界のことに限らず気軽に意見を進言し、ご指導を仰いだものである。大平さんほどのような話にも真面目に真正面から耳を傾けられ、かつて池田さんが話されたとおり『男』大平正芳から啓発されるころは大であつた。

長いあいだ、私は池田さんからこのような助言をしていたいただいたことを、大平さんには黙ってお付き合ひしていた。亡くなる二年ほど前にそのことを打ち明けたのである。公私ともにご懇意をねがい、今はただ感謝の念にたえないが、特に今日の混迷する内外情勢において、大平さんのような偉大な指導者を失つたことは惜しみて余りあるものがある。あらためてご冥福を祈りたい。

(野村證券相談役)